

令和元年6月定例会一般質問

1 教育振興について

(1) 学びの創造推進事業

- ア 目的
- イ 現在までの成果
- ウ 今後の取り組み

(2) コミュニティ・スクール

- ア 目的
- イ 現在までの成果
- ウ 今後の取り組み

2 「心かようまちプラン」いのちをまもる宇部市自殺対策計画について

(1) 宇部市の自殺者の状況

- ア 年代別の状況
- イ 自殺の背景

(2) 施策事業

- ア 重点施策
- イ 宇部市自殺対策計画における評価指標

一般質問



無所属 青谷 和彦

心のコップを  
立てる教育を

江戸時代の儒学者佐藤一斎は言志四録で『少にして学べば、壮にして成すあり。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。』と学び続ける大切さを説かれています。一生学び続けるには、子どもたちの心のコップを立てることが大切です。そこで重要な柱となる二つの施策について教育長にお尋ねしました。

**Q** 学びの創造推進事業の成果と今後の取り組みについて

**A** 全国学力・学習状況調査において中学校では6年連続で全国平均を上回り一定の成果が出ている。今後は、小中一貫教育を視野に小中合同研修を充実させる。

**Q** コミュニティスクールの成果と今後の取り組みについて

**A** 子ども達が地域行事に参加する機会が増え故郷への誇りと愛着を育むことに繋がっている。今後は、コーディネート機能を強化するための研修を充実させる。

**Q** 宇部市内の自殺者の状況について

**A** 2013年の40人以降2017年には23人と減少はしていますが、20歳未満、20歳代、60歳代、70歳代は全国平均を上回っています。

**Q** 市自殺者対策計画の重点施策は

**A** ゲートキーパーの養成など地域ネットワークの強化と生きがいを重視した自己肯定感を高める支援を重点施策とし、ICTを活用した心のチェックアプリをホームページにアップした。

令和元年9月定例会一般質問

1 教育振興について

- (1) 小中一貫教育
- (2) プログラミング教育
- (3) 小中学校特別教室へのエアコン設置

2 校区ふれあいセンターの有料化後の運営状況について

- (1) 稼働率
- (2) 利用者数
- (3) 収入
- (4) 利用者拡大への取り組み

一般質問



無所属 青谷 和彦

**小中一貫教育が  
大きな柱に！**

来年度から小中一貫教育が全小中学校で始まります。小中学校が目指す子供像を共有し、9年間を見通した教育課程を編成し系統的な教育を目指す仕組みで、今後の宇部市の義務教育の中心を担う大きな柱です。

**Q** 小中一貫教育の課題について

**A** 離れている小中学校における授業、行事の効果的な実施方法、地域への十分な周知が課題として挙がっている。

**Q** 2つの中学校へ別れて進学する為に小中一貫教育の枠組みから外れてしまう子供達への対応について

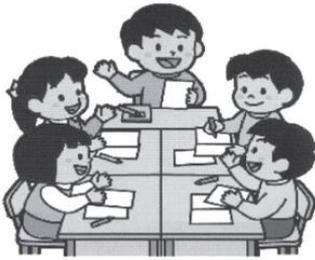
**A** テレビ会議による授業や行事を積極的に行う、連携する学校においてカリキュラムや学校生活のルールを出来るだけ共通化する。

**Q** プログラミング教育とは

**A** 自分が意図した活動を試行錯誤しながら論理的に考えていくプログラミング思考力を育みコンピューター等を上手に活用してより良い社会を築いていく態度を育てること。

**Q** 特別教室のエアコン設置について

**A** 給食施設への設置後早急に取り組んで行く。設置を予定している240教室に取り付ける予算規模は約10億円。





無所属 青谷 和彦

行政財産の目的外使用

**Q** 私有車を公有地に駐車するとき（行政財産の目的外使用にあたる）の、申請書の提出状況は約330台の自家用車が駐車されており、一枚も提出されておられません。

**A** 市の財務規則には申請書の提出が義務付けられています。市の規則を遵守せず、今までウヤムヤのまま放置された理由は

**Q** 駐車をスペースに余裕があったことや、社会情勢など様々な諸事情の為に。

**A** 適正に運用するため、の課題や今後の方向性について

**Q** 要綱の作成や、料金の設定などがあり、ます。防府市など他の市町において、有料化の流れにあることから、本市においても前向きに取り組

**A** 今回の質問で行政自らが決めた規則が50年以上守られていないことが判明しましたが、来年度に向けて適正化を図るとい

**Q** う答弁があり、質問をした意義がありました。施行されたら、適切な財産管理、不公平の是正、車

**A** 通勤の減少、歳入の増など市民にとって多くのメリットが生まれることが期待されます。



持続可能な世界を実現するために

**Q** 運用開始時期は

**A** 令和2年度4月を目指したい。

令和元年12月定例会一般質問

- 1 行政財産目的外使用について
  - (1) 通勤自動車の駐車の現状
  - (2) 適正な運用へ向けての課題
- 2 小中一貫教育について

令和2年6月定例会一般質問

新型コロナウイルス影響下における教育振興について

- (1) 学びの保障
- (2) オンライン教育
- (3) 児童・生徒の心のケア



令心会 青谷 和彦

新型コロナウイルス影響下における学びの保障

**Q** 授業日数の確保について

**A** 学校行事の大幅な見直し、水泳授業の中止など様々な工夫を凝らして例年通りの時間を確保する。

**Q** 授業のスピードが速くなり理解不足の児童・生徒が増えることはないか。

**A** 例年通りの授業時間を確保するので授業の質は担保できると考えている。

**Q** オンライン教育について

**A** 新学年になってチューブで授業動画を限定配信した。今後は教育委員会独自のホームページを作成し、オンライン環境整備する。双方のオンライン授業は北部で実施している。

**Q** 教育の柱である学び合いについて

**A** 12月議会で問題提起した行政財産の目的外使用について、4月1日に条例が改正され、約300万円の新たな独自財源を獲得することが出来ました。



12月議会で問題提起した行政財産の目的外使用について、4月1日に条例が改正され、約300万円の新たな独自財源を獲得することが出来ました。

**要望** タブレット等を駆使してチャットなど、新しい学校休業に備え、双方向のオンライン教育の環境を早急に整備していただき、子供たちの学びの保障をしっかりと担保していただきたい。

令和2年9月定例会一般質問

1 「書面、押印、対面」の見直しに向けた共同宣言を踏まえた感染症にも経済危機にも強く、人々の支え合いのある官民一体のまちづくりについて

- (1) にぎわいの創出とデジタル化の両立
- (2) 共同宣言の概要

2 地域における社会教育の現状と今後の方向性について

- (1) 現状
- (2) 今後の方向性



令心会 青谷 和彦

にぎわい創出とデジタル化の両立について ほか

**Q** 「市役所に行かない・待たない・書かない」などオンラインを充実させて人の流れを止める、一方、にぎわいまちづくりにおいては、新庁舎に市民の交流を図る機能が組み込まれるなど、アクセスとブレイキを同時に踏むような施策が展開される中、整合性をどうやって取るのか。

**A** 市役所に行かないことと、にぎわい創出は別物であり矛盾していない。市民が市役所に行かなくてもにぎわいまちづくりを進められる。

繰り返し質問したが同じ答弁であった。ウィズコロナ時代にパラダイムシフトしたにもかかわらず、以前の施策を修正することなく踏襲する姿勢、本当ににぎわい創出ができるのか、大いに懸念される。

**Q** 社会教育推進委員会の現状は

**A** あまり活発に活動をしていない地域もあり、教育委員会としてはもう少し積極的に関わっていく。

**Q** ウィズコロナ時代の社会教育は

**A** ICTを活用した取組が大切になることから、ふれあいセンターに整備されるWiFiやタブレットを活用した、複数地区での遠隔講座の合同開催や、小中学校と連携して遠隔料理教室等を開催する。

**Q** 社会教育の今後の方向性は

**A** 社会教育推進委員会、学校運営協議会と連携してコミュニティ・スクールを充実させ、学校を核とした地域づくりを一層推進させる。

- 1 学童保育について
  - (1) 現状
  - (2) 課題
- 2 学びの保障について
  - (1) 現状
  - (2) 課題



## 学びの保障

令心会 青谷 和彦

**Q** 社会福祉協議会が事業を見直し学童保育から撤退することですが今後の運営はどこが担当のでしょうか。

**A** 地域の子供は地域で育てるの理念の下、地域の団体をお願いします。

**Q** 地域からの応募が無い場合は

**A** 地域外の市内の団体や株式会社などを考えている。

**Q** その場合に指導員などの引き続きの雇用は担保されるのか？

**A** 仕様書等にその旨を記載して対応する。

**要望** 託児や遊びも大切とも連携して学習習慣が身につく学びの要素を取り入れていただきたい。  
**Q** 不登校の子供の現状について

**A** 令和2年度2学期までで194名です。うち約90名はふれあい教室等で個別学習を行っています。

**Q** 残りの約100名には、どのような対応をされていますか。

**A** 令和3年4月からタブレットを利用したオンライン授業を始めます。不登校の子供たち全員に学びの保障をすることは大きな課題であるが、誰ひとり取り残さないというSDGsの理念の下、私もしっかりと取り組みたいと考えています。



1 地域づくりについて

- (1) 地域計画
- (2) 中間支援組織
- (3) 市政懇談会

2 不登校児童・生徒の学びの保障について

- (1) 現状
- (2) 課題



令心会 青谷 和彦

地域づくりと不登校児童  
生徒の学びの保障

少子高齢化やコロナ禍で将来が見通せない地域づくりについて質した。

**Q** 地域計画を立てる目的は

**A** 課題や方向性を広く共有し多様な人材を参画させ課題解決を目指すため。

**Q** 専門家ではない宇部ネットワークに業務委託した理由は。連携先である市民プロデュースへの委託割合は

**A** 市民団体への実績があるので連携すれば支援できると考えた。宇部市にも地域を支援出来る組織を育てたい。再委託率は約40%。

**Q** コロナ禍の影響があり地域計画を見直すとのことだが、終息した後、どのような状況を想定して計画を見直すのか。

**A** 新しい生活様式を基準とし、感染症予防に配慮した計画に見直す。

**Q** 地域づくりの達成度の数値目標はあるか。

**A** 今は持ち合わせていないが、例として住民満足度を数値化することは考えられる。



不登校児童・生徒の学びの保障について質した。

**Q** オンライン授業を新学期から始められなかった理由は

**A** 校内通信環境は整備したが外部との接続部分の容量が不足していた。出来るだけ早急に実施出来るよう努める。

令和3年9月定例会一般質問

1 火葬場について

- (1) 現状と課題
- (2) 今後の取組

2 教育振興について

- (1) 小中学校の適正配置
- (2) オンライン授業

一般質問



令心会 青谷 和彦  
新火葬場建設／小中学校の適正配置／オンライン教育

火葬場の現状並びに新火葬場の供用開始について

**Q** 新火葬場の供用開始時期は

**A** 令和10年度を予定している。

**Q** 予定地、建設規模は

**A** 予定地は白石公園墓地付近、規模は他市の施設利用も想定し適切な規模とする。

**Q** 現施設の維持管理に

**A** 限られた予算ではあるが、利用者の声を

**Q** お聞きすることや担当職員とは別の職員も利用者

**A** 目線で現地確認し、最後

**Q** のお別れの場としてふさわしい時間と場所を提供

**A** できるよう改善に努める。

**Q** 小中学校の適正配置につ

**A** いて

**Q** 進捗状況は

**A** 本年9月に庁内の、令和4年4月には外部識者による検討委員会を設置し、令和5年3月に最終的な適正規模・適正配置計画を策定する。

**Q** 策定される計画の内容

**A** 通学区域も含め、具体的な適正配置計画を示す。

**Q** 計画実行のタイムスケジュールは

**A** 令和5年に策定されるとして10年間で全てを実行したい。

**Q** 地域との協議が整わない場合は

**A** 長いスパンで検討しつつ、子供たちの幸せを最優先に決断する。

**Q** オンライン教育について

**A** 家庭に通信環境がない子供たちへの対応

**Q** 国、県、市と連携しながら考えるが、無理

**A** なら市も頑張る。

令和3年12月定例会一般質問

1 学童保育について

- (1) 学童保育クラブ運営指針
- (2) 学童保育クラブ運営団体の責任

2 学びの保障について

- (1) 不登校児童生徒の現状と課題
- (2) オンライン授業



令心会 青谷 和彦

**学童保育の運営と責任／  
不登校の子供たちの学び  
の保障**

**Q** 事故等が発生した場合の学童保育クラブの運営責任は

**A** 実施主体である宇部市が責任を持って対応する。

**Q** いじめ等のトラブルが起きた時の対応は

**A** 学校や教育委員会と連携し解決を図る。

**Q** 運営法人の設立費用に補助はないのか

**A** 既存団体に補助をしていないので無い。

**Q** 運営団体の審査方法は

**A** 仕様書に沿った書類、運営方針、団体構成などを書類で確認する。

**Q** 不登校児童生徒の現状と不登校の要因は

**A** 令和2年度は、元年度と比較して、58人増加している。不登校の要因としては、家庭環境など様々あり一

概には言えない。

**Q** フリースクールは出席日数にカウントをされるのか

**A** 校長の判断によるがカウントされる。

**Q** 不登校の子供の学びの保障の一つとしてオンライン中学校の可能性は

**A** 学びの多様性の中で選択肢の一つには、なりうる。

**Q** 不登校の子供たちのオンライン授業への参加状況は

**A** 9名の子供たちが一人一台端末で、ふれあい教室では10名の子供たちが学級の授業に参加している。

**Q** 学級閉鎖等になった場合に双方向のオンライン授業の準備状況は

**A** 概ね対応可能な状況にある。

教育ICTについて

(1) オンライン授業

- ア 現状
- イ 課題

(2) ICT環境の充実

- ア 現状
- イ 課題

(3) ICT活用力の向上

- ア 現状
- イ 課題



令心会 青谷 和彦

教育ICT（オンライン授業・ICT環境の充実・ICT活用力の向上）

**Q** 臨時休校時にオンライン授業を実施出来た学校は

**A** タブレットを持ち帰られなかった学校以外はすべて実施できたが、対面授業より疲れるとの意見もあった。

**Q** 授業形態は

**A** すべての学校で双方向の授業ができた。WiFi環境がない子供たちへの対応

**A** はポケットWiFiの貸し出しを考えている。

**Q** デジタルドリル等の利用状況は

**A** デジタルドリルは、個人の能力に対応しているのが個別最適がしやすい。

**Q** ICT教育の研修講師は

**A** 教育委員会のICT担当主事が対面で行った。校長会、教頭会での研修は、時間が多くかかった。

**要** 問題点をあぶり出すために学期に一度全校一斉のオンライン授業を実施したらどうか。

また、前半は外部講師の一斉授業、後半は担任によるフィードバックを行うなどハイブリッド方式で行え

は先生にもゆとりが生まれるので



**要** 教育のパラダイムシフトを迎え、この教育ICTを進めていく上でSDGsの誰一人取り残さないを実現していただきたい。